

チームオレンジ善通寺だより

チームオレンジ座談会を開催しました！



第8回

令和5年6月14日

第8回目の座談会は、「見守り」と「外出支援」をテーマに開催し、16名が参加されました。高齢者の見守り訪問をされているサポーターさんと、見守り活動や外出支援等の地域活動を支援している市社会福祉協議会の取組みについてお話をお聞きしました。

戸城さんは普段の生活の中でゆるやかな見守り活動をされています。「自分自身の健康のためにやっており特別なことはしていません。」と謙遜されますが、普段から近所の方たちと温かいつながりがあるからこそ、「いつもより元気がないな。大丈夫かな？」と気づくことができることを教わりました。

戸城さんのお話



小田さんのお話



小田さんは生活支援サポーターとして、月1回高齢者宅を訪問し安否確認や話し相手になる等の活動をされています。訪問中は歩行状態など、前回訪問時と変わったことがないか気にかけてみるようにされているそうです。

認知症になっても地域とのつながりや居場所があると安心ですね。生活支援サポーターによる見守り訪問を希望する方は、地域包括支援センターまでお問い合わせ下さい。

✿グループワークで出た意見✿

- 市や社協の取組みを知れてよかった。相談先やどんなサービスがあるか知っておき、地域の中で情報提供することも私たち認知症サポーターの役割だと思う。
- 独居や夫婦のみの世帯は地域の中で見守りや支援が必要な世帯と認識しやすい。一方、家族と同居している人は安心と思いがちだが、家族だけで介護を抱え込みしんどい思いをしていることがわかった。介護家族が孤立しないよう、地域の関わり・支えが必要だと思う。

グループワークの様子



第9回

令和5年8月2日

第9回目の座談会は、回生病院認知症疾患医療センター相談員の殿畑和子氏をお迎えし、「認知機能低下に係る受診とケアについて」をテーマにお話しいただきました。当日は20名が参加され、みなさん熱心にお話を聞かれていました。



○認知症疾患医療センターについて(殿畑氏のお話より抜粋)

認知症に関する相談、受診に関する相談

来院のほか、電話相談やメール相談もできます。

認知症の鑑別診断

症状や検査の結果から可能性がある病気を比較・除外し、診断を行います。

認知機能テストの点数が基準値以下だから認知症とは限りません。同様に基準値以上だから認知症でないとも限りません。気になる症状があれば専門医を受診しましょう。

受診の心構え

- あまり構える必要はありません。
リラックスしてお話をしていただけると、時間をとってお話を伺います。
- 問診が重要です。ご本人の普段の様子を伝えましょう。
一度にお話するのは大変なので、メモやノートなどの記録があれば持参しましょう。
- あくまでご本人の意向が大切です。無理やり受診を押し進めないようにしましょう。
- ご本人が受診を拒否され対応に困る時は、かかりつけ医や地域包括支援センターに相談しましょう。
- 受診し、病名がつくことについて、ご本人の不安が大きいことを理解して関わるのが大切です。
- ご家族はご本人と適正な距離をとり、不安や心配なことはためこまず、医療機関、地域包括支援センター、家族会等とつながりましょう。ご自分の時間を大切にしましょう。



殿畑さんもまじえたグループワークでは、受診のこと、普段の介護で困っていること等、各テーブルで思い思いにお話を楽しまれていました。みなさんのお話を少しご紹介します。

- 認知症疾患医療センターの存在を知り、心強く思った。
- 座談会で話をするだけで笑うことができ、肩のこりがほぐれるように思う。
- 男性の参加者が少なくさみしい。見栄っ張りでなかなか弱音が吐けないが、男性介護者同士なら話がしやすい。



世界アルツハイマー月間に合わせ、認知症の普及啓発のため旧善通寺偕行社のライトアップを行いました！

善通寺市地域包括支援センター（高齢者課内）

TEL (0877)63-6364 FAX (0877)63-3778

Mail houkatsu@city.zentsuji.kagawa.jp